

## 平成27年度 教育事業

# おおすみくん家 ボランティア養成研修

- 趣 旨 青少年教育施設の役割を理解し、野外教育活動等の指導・支援ができるボランティアの養成・確保を図ることを目的とし、青少年の自然体験活動を推進する。
- 期 日 研修：平成27年 6月13日(土)～ 6月14日(日)  
研修：平成27年10月17日(土)～10月18日(日)
- 参加対象 高校生・大学生・一般(15歳以上、専門学校生を含む)
- 募集定員 各40名程度
- 参加者 研修：24名  
研修：9名 計31名
- 指 導 者 鹿児島大学教育学部准教授 福満博隆氏  
大隅肝属地区消防組合職員・垂水市消防本部職員  
国立大隅青少年自然の家職員
- 日程と主な活動



### 研修1【6月13日～14日】

### 研修2【10月17日～18日】

	時間	活動内容・指導者等
一 日 目	9:00	受付(新城海の家)
	9:15	開講式「出会いのつどい」
	9:30	講義1「青少年教育における体験活動の意義」 鹿児島大学准教授 福満博隆氏
	11:00	講義2「ボランティア活動のあり方」 鹿児島大学准教授 福満博隆氏
	12:30	昼食(弁当)
	13:30	実習1「ゴムボート・カヌー体験」 大隅青少年自然の家職員
	17:00	実習2「野外炊飯」 大隅青少年自然の家職員
	19:30	移動
	20:00	入浴
	22:00	就寝
二 日 目	6:00	起床・荷物整理・清掃
	7:00	朝のつどい・朝食(レストラン)
	9:00	実習4「普通救命講習」 大隅肝属地区消防組合
	12:00	昼食(レストラン)
	13:00	講義3「青少年教育施設の現状と運営」 大隅青少年自然の家室長
	14:30	説明1「青少年教育施設におけるボランティア活動の理解」 大隅青少年自然の家企画指導専門職
	16:00	説明2「法人ボランティア登録制度について」 大隅青少年自然の家事業推進係
	16:15	まとめと振り返り
16:30	閉講式 解散	

	時間	活動内容・指導者等
一 日 目	9:00	受付(本館)
	9:15	開講式「出会いのつどい」
	9:30	講義1「青少年教育における体験活動の意義」 鹿児島大学准教授 福満博隆氏
	11:00	講義2「ボランティア活動のあり方」 鹿児島大学准教授 福満博隆氏
	12:30	昼食(レストラン)
	13:30	実習1「普通救命講習」 垂水市消防本部
	17:00	実習2「野外炊飯」 大隅青少年自然の家職員
	20:00	入浴
	21:00	実習3「宿泊室点検について」 大隅青少年自然の家職員
	22:00	就寝
二 日 目	6:00	起床・荷物整理・清掃
	7:00	朝のつどい・朝食(レストラン)
	9:00	講義3「青少年教育施設の現状と運営」 大隅青少年自然の家次長
	10:00	実習4「万滝ハイキング」・昼食 大隅青少年自然の家職員
	14:00	説明1「青少年教育施設におけるボランティア活動の理解」 大隅青少年自然の家企画指導専門職
	15:00	説明2「法人ボランティア登録制度について」 大隅青少年自然の家事業推進係
	16:00	まとめと振り返り
	16:15	閉講式
16:30	解散	

## 8 事業運営について

- (1) 独立行政法人国立青少年教育振興機構法人ボランティア養成共通カリキュラムに従って、1泊2日の日程で計画した。本施設を会場として本館や新城海の家を中心に研修を行った。修了者は「法人ボランティア」として登録することができ、今後、各国立施設での事業等にボランティアとして活動することができる。
- (2) プログラムを構成するにあたっては、本施設の特徴を生かした活動プログラムを体験する場を取り入れるようにした。具体的には、主な教育事業に必要なスキルとして「野外炊飯」、「宿泊室点検」で演習を行い、看板事業である「海からのメッセージ」や「山から君へのメッセージ」での必要なスキルとして「ゴムボート・カヌー体験」、「ハイキング活動」を取り入れて企画した。

## 9 事業の実際

- (1) 研修を通して、参加者の半数以上が鹿児島大学や鹿児島体育大学などの大学生で、高校生は9名、一般の方は1名の参加があった。
- (2) 講義「青少年教育における体験活動の意義」、「ボランティア活動のあり方」については、鹿児島大学教育学部准教授福満博隆氏を講師として招聘し、これまでの研究実践に基づいた講義を聴くことができた。
- (3) 講義「青少年教育施設の現状と運営」では、自然の家室長及び次長が施設職員としてのこれまでの経験と全国の青少年教育施設の現状を踏まえて講義を行った。
- (4) 「普通救命講習」は、研修では大隅肝属地区消防組合職員、研修では垂水市消防本部職員の方を講師として招聘し、心肺蘇生、AEDの使用法、止血の方法等を学ぶことができた。受講者全員に普通救命講習修了証が交付された。
- (5) 「野外炊飯」では、KYTを活用したグループワークを行ったり、薪割り・焼き付け等基本的なスキルの習得を図ったりしながら「カレーライス作り」を体験した。また、「宿泊室点検」の実習では、ベッドメイキングや退所点検時のポイントなどを学ぶことができた。
- (6) 研修の「ゴムボート・カヌー体験」では、海浜活動安全マニュアルに基づきライフジャケットの着用の仕方やオールの方法とともに基本的な漕ぎ方、水難者救助法の基礎等スキル向上を図った。研修の「万滝ハイキング体験」では、登山活動を通して、その楽しさを体験するとともに、安全管理について具体的に研修することができた。

## 10 成果

参加者は、本施設の特徴を生かした活動プログラムを体験することで、自らが体験活動の楽しさを味わうことができた。また、今後、教育事業に参加する子供たちに対して充実した体験活動ができるように指導・支援をやっていきたいという意欲を高めることができた。

教育事業等において実施する頻度が高い活動プログラムを取り入れて研修を進めたことによって、参加者が意欲的かつ主体的に参加するとともに、必要なスキル（野外炊飯、安全管理等）を体験を通して学ぶことができた。

